

## 第12回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 議事要旨

I 日 時 平成31年2月14日(木) 14:00～16:00

II 会 場 中央コミュニティセンター9階 93会議室

### III 出席者

(委 員) 杉田克生委員、仲村美緒委員、小林英清委員、菊池裕美委員、松本聡恵委員、久保田尚史委員、松尾修一委員、廣森貴恭委員、今関裕恵委員、齋藤容一委員、小山徹信委員、鈴木由歌委員、山田尚子委員、高山智裕委員、石原由紀委員、乃万由佳委員、小出八重子委員、池田早苗委員、伊藤依理子委員、大木敦彦委員

(代理出席) 木村氏(久保田ゆみこ委員代理出席)、三橋氏(今福教子委員代理出席)、石橋氏(杉田博儀委員代理出席)計23名

(事務局) 発達障害者支援センター：川崎就労支援員、斎藤発達支援員、奥田相談支援員  
稲葉巡回相談員、藤原巡回相談員

障害者自立支援課：柏原課長、矢野主査、坪山主任主事

千葉市療育センター：高橋事務局長

(説明者) 教育支援課：久保木主任指導主事

### IV 配付資料

資料1	年度別実績報告一覧表(平成26年度～平成30年度)
資料2	支援件数の推移(平成26年度～平成30年度)
資料3	平成29年度 事業報告
資料4	平成30年度 事業経過報告
資料5	「個別の教育支援計画」の取組みについて
追加資料1	紹介票について
追加資料2	今後の発達障害者支援についての検討課題について
参考資料	第3次浜松市障がい者計画(抜粋)

### V 議事概要

#### (1) 平成29年度、事業報告について

事務局より、資料1～資料3に基づき説明し、質疑応答を行った。

#### (2) 平成30年度、事業経過報告について

事務局より、資料4に基づき説明し、質疑応答を行った。

#### (3) 個別の教育支援計画の取組みについて

教育支援課久保木主任指導主事より、資料5に基づき説明し、意見交換を行った。

#### (4) その他

ア 杉田座長より、追加資料1に基づき説明し、意見交換を行った。

イ 障害者自立支援課柏原課長より、追加資料2及び参考資料に基づき説明し、意見交換を行った。

□ 議事要旨の確定方法について

事務局より、議事要旨について、座長の承認・署名をもって確定・公開することを提案し、出席委員多数の賛同により承認を得た。

VI 会議経過 別紙 1 のとおり

平成31年      月      日

議事録署名人 \_\_\_\_\_

## 【別紙1】第12回 千葉市発達障害者支援連絡協議会 会議経過

### ○ 事務局（川崎）

～開会、資料確認等～

### ○ 柏原課長

障害者自立支援課長の柏原でございます。本日は、ご多忙のところご出席頂きまして、誠にありがとうございます。また、皆様方におかれましては、日頃より本市の発達障害者支援の推進にあたり、ご理解・ご協力を頂いており、重ねて御礼申し上げます。

さて、この連絡協議会は、発達障害者に対する総合的なサービスの在り方や、関係機関の連携体制の確立、また、関係機関が抱える諸問題への対応を、専門的に協議・検討するため、平成20年7月に設置されたものであり、今回で12回目を迎えます。

本日の議題ですが、まず、これまで実施してきた発達障害者支援センターの取組みをご報告させていただき、委員の皆様とこれを共有するとともに、それぞれのお立場からのご意見を賜りたいと考えております。

次に、本日は教育委員会教育支援課より久保木主任指導主事にご出席頂いております。久保木主任指導主事からは、「個別の教育支援計画」の取組みについて、学校内での活用だけでなく、幼小連携、本市における、いわゆる縦の連携について、ご説明頂きます。

そして、その他として、杉田座長からは、紹介票について、また、私からは、以前、当課から委員の皆様へ照会させて頂きました「今後の発達障害者支援についての検討課題」について、回答をまとめた資料を作成いたしましたので報告させて頂きます。

今回は、大変、盛りだくさんの議題となっており、限られた時間の中で、恐縮ですが、ぜひ、委員の皆様の忌憚のない意見を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、簡単ではございますが、挨拶とさせて頂きます。本日は、よろしくお願い致します。

### ○ 事務局（川崎）

～新委員紹介～

続きまして、次第の4議題に入らせて頂きます。以降の進行は杉田座長にお願い致します。

### ○ 杉田座長

それでは次第の4の議題に入らせて頂きます。まず『平成29年度、事業報告について』説明をお願い致します。

### ○ 事務局（斎藤）

～資料1・資料2・資料3-1の説明～

### ○ 事務局（藤原）

～資料3-2の説明～

### ○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見はございますか。続きまして『平成30年度、事業経過報告について』説明をお願い致します。

○ 事務局（斎藤）

～資料4-1の説明～

○ 事務局（藤原）

～資料4-2の説明～

○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの報告につきまして、ご質問やご意見はございますか。

○ 菊池委員

自閉症協会の菊池です。よろしくお願いします。とてもいい資料だと思いますが、ボリュームがありますので事前に頂けると有難いです。

すすくサポートの報告で、関係機関と更なる連携が必要と書かれていますが、関係機関とはこういった機関でしょうか。

○ 仲村委員

はい、発達障害者支援センターの仲村です。発達障害の特性があるお子さんではなく、家庭環境や保護者自身が問題を抱えているため、お子さんに不応行動が表れているケースがあります。状態としては不応行動が出ているが、障害ではないお子さんに対してフォローする機関として保健福祉センターの保健師（健康課）や家庭児童相談室（子ども家庭課）などがあるかと思います。

○ 鈴木委員

ペアレント・トレーニングの募集案内はどのように周知されていますか。

○ 仲村委員

ペアレント・トレーニングはホームページ等での公募はしていません。基本的には発達障害者支援センターを利用されている方、療育相談所、すぎのこルーム、大宮学園、桜木園、養護教育センターで募集しています。

○ 鈴木委員

参加者が少ないと聞きましたが、まだまだ参加したい保護者がいると実感しています。やはり診断後の受け皿が足りないと感じています。

○ 仲村委員

参加人数が減ってきているので、今後は募集の方法は考えたいと思います。

○ 杉田座長

他にいかがですか。

○ 木村様

千葉発達障害児・者親の会「コスモ」の木村です。千葉県発達障害者支援センターCASで

ペアレント・メンター事業を行っていますが、千葉市ではいかがですか。

**○ 柏原課長**

障害者自立支援課の柏原です。千葉市ではペアレント・メンター事業はまだ行っていません。メンターになるには養成講座を受講する必要があると考えております。千葉市自閉症協会の菊池会長ともどのように養成していくかを検討しています。

**○ 菊池委員**

CASのペアレント・メンター事業に千葉市の方もペアレント・メンターとして参加していて個別相談も受けています。今年度から千葉市自閉症協会ではペアレント・メンター相談会を2回実施しましたが外部からの参加がなかったので、次年度以降、どのように広めていくかを検討したいと思っています。

**○ 木村様**

CASのホームページに載っていますが、千葉市在住の方の相談の場合は断られることがあります。

**○ 菊池委員**

ペアレント・メンターについては受けてくれます。

**○ 木村様**

利用までたどり着かないことがあるので、ホームページ上に載せて頂けると助かります。

**○ 杉田座長**

ぜひ、考えてください。他にいかがでしょうか。

自閉症スペクトラム障害のペアレント・トレーニングはこれから実施するのですか。

**○ 仲村委員**

ADHDのペアレント・トレーニングを応用していく形になります。1から作るような感じになりますが、考えていかなければならないと思っています。

**○ 杉田座長**

わかりました。

では、次に移らせて頂きます。『個別の教育支援計画の取り組みについて』教育支援課の久保木様お願い致します。

**○ 久保木主任指導主事**

教育支援課の久保木と申します。どうぞよろしくお願い致します。

まず、教育委員会から一点、お知らせがあります。昨年8月に千葉市特別支援教育推進基本計画を策定致しました。特別支援に関する千葉市の教育の在り方を5年間に渡ってどのようにしていくかが書かれています。教育支援課のホームページに載っておりますのでご覧頂ければと思います。

では、資料5に入らせて頂きます。

千葉市特別支援連携会議を平成27年度に養護教育センターが中心となり、特別な支援を要する子どもに関する関係機関等のネットワークを構築することを目的として作りました。その特別支援連携会議のメンバーは（3）連携会議委員所属をご覧ください。

協議内容は各ライフステージにおける相談支援体制の構築、幼稚園・保育所（園）から小学校、小学校から中学校等での連携における課題への対応、改善に関すること、困難事例への対応の在り方等になります。

具体的な取り組みとして、①総合案内パンフレットの作成。こちら養護教育センターのホームページに載っております。②は後でお話し致します。③連携サポートリストの作成。連携サポートリストは、幼保支援課、幼保運営課にご協力頂き、年少段階から小学校入学を見据えて施設の改修が必要なお子さん、医療的ケアが必要なお子さん等に関する情報を早め to 上げ、対応していくシステムです。

来年度からは千葉市特別支援連携協議会と名前を変え、メンバーを少し入れ替えながら、拡大していくことを養護教育センターで計画しています。

続いて、個別の教育支援計画についてお話しさせていただきます。小学校段階、中学校段階の個別の教育支援計画は、以前から資料3の様式を養護教育センターで作成し、各学校で取り組んでおりました。これを元に幼稚園・保育所（園）から小学校への連携がスムーズにいくための引継ぎシートが作れないかとの意見があり、幼稚園協会、民間保育園協議会、幼保支援課、幼保運営課にご協力頂いて幼保版の個別の教育支援計画を作成致しました。資料2が3歳から5歳児用の記入例になります。養護教育センターが作成したものは障害名等を書く欄があったので、障害認知がまだうまくできていない保護者に配慮し、このような形になっています。

また、書いて頂く幼稚園、保育所（園）の先生方の負担を考慮してスペースを小さくしています。更に受け取った小学校側が書かれたものだけではわからなければ、幼稚園や保育所（園）に聞いて頂くという真の連携に繋がたいという狙いもあります。

平成29年度の養護教育センターの就学相談をした方に「こういうものがあるからぜひ、幼稚園や保育所（園）の先生にお願いしてみてもどうか」とお伝えして、トライアル期間としてスタートしました。実際に書いて頂いた先生方に調査を行い、書きにくかった点を修正しながら30年度に完成版を作成しております。

実際に小学校に引き継がれた数は43ケースになります。その結果、33ケースについては、さらに小学校側が修正をして個別の教育支援計画を作成し、他の10ケースについても、個別の指導計画等を作成しており、小学校がしっかりと受け止めて指導に役立てているということです。

千葉市にはライフサポートファイルがありますが、障害を認知していない保護者にも個別の教育支援計画は受け入れられやすいと思っており、「これを小学校に持って行くと安心して小学校生活を始められるよ」と伝えているところです。これが少しずつ広がって作るのが当然になっていってほしいと思います。以上で、報告を終わります。よろしくお願い致します。

## ○ 杉田座長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして何かご意見はございますか。

ライフサポートファイル作成に関与した者として、ぜひ保護者に紹介して頂きたいと思い

ます。

### ○ 小山委員

NPO法人EPOの小山です。一貫した情報の共有等、他機関連携が必要ではないかと思っています。いつの段階で作れば情報がスムーズにあがっていくのかを考えると、学校では遅いのではないかと思います。一番は診断時ではないかと個人的には思っており、診断時の情報の共有等の仕組みを上手く作ることで、よりスムーズに持ち上げることができるのではないかと思います。その仕組みを具体的にしていくことで、よりよい連携が取れるのではないかと感じています。

### ○ 久保木主任指導主事

ありがとうございます。保護者がお子さんの困っている状況を理解したタイミングがスタートの地点になるのではと思っています。今はまだ始まったばかりなので、養護教育センターの就学相談に来られた保護者の方からスタートする。役に立つと思って頂ければ、年中、年少の段階から先生方が声をかけて広がっていくのではと思っています。仕組みについては、まだまだ検討をしていかなければいけないと思っています。ありがとうございます。

### ○ 杉田座長

他にいかかでしょうか。

### ○ 鈴木委員

千葉市幼稚園協会の鈴木です。個別の教育支援計画の幼保版の作成に関わらせて頂きました。当幼稚園でも昨年度から作成して小学校に繋げています。私達は年中から始めたい、できれば年少から作っていきたいと思っており、今年度は年中の診断を受けている方にこちらから提案をしました。既にご存じの方もおり、年中段階で療育を受けられている方は、保護者同士の繋がりの中で情報共有がなされてきていると感じています。

どの段階で作成するかということですが、健診時などに個別にではなく、皆さんに周知して頂く。0、1、2歳版も作っているので、情報として伝えていくこともいいのではないかなという話も出ておりました。

### ○ 杉田座長

他にいかがですか。

### ○ 小林委員

市立養護学校の小林です。よろしくお願いします。ライフサポートファイルの存在は知っていますが、どういう内容で、どのぐらい配られているのかを教えてくださいませんか。

### ○ 柏原課長

障害者自立支援課です。ライフサポートファイルは、当課の方のホームページに全てのページを展開しており、ダウンロードして頂くようになっています。先程の久保木先生の話とは逆に、広いスペースを取っており、子どもの色々なことが書けるようになっています。いずれ横と縦の連携の全体像が見えた中で、ライフサポートファイルの使い勝手を良くし、保

護者の方に伝えやすいものにしていきたいと思っています。

○ 仲村委員

発達障害者支援センターのHPからもダウンロードできます。

○ 杉田座長

母子手帳の一生涯版であるライフサポートファイルを普及させたいと思っています。本来であれば千葉市が全てのお子さんに配布してくれればいいのですが、現状ではインターネットで取り出しなさいという形になっています。学校の先生方がどこまで知っているののだろうかと危惧するところでもあります。

○ 菊池委員

個別の教育支援計画を保護者が頂いて、ライフサポートファイルに閉じていくというイメージとなると、障害のあるなしに関わらず、ライフサポートファイルは持っていることが前提になるということですか。

○ 柏原課長

そうです。

○ 菊池委員

そうすると膨大な量になります。個人でプリンターを持っている人しかできないとなると、行きわたるという意味では難しい気がします。もう少し良い方法はないでしょうか。

○ 杉田座長

行政の問題になりますが、いかがでしょうか。

○ 柏原課長

はい。千葉市のライフサポートファイルは母子手帳のさらに先まで書いてあるのでページ数が多くなっています。作成をした当時は縦横連携の議論がまだできていない時点でした。今回の幼保小の連携、最終的には就労時の連携までの取り組みの結果を踏まえて、もう一度調整をして、もっと使いやすいものにしていきたいと思っています。

○ 杉田座長

他はよろしいでしょうか。

では、次にその他に関しては、私から紹介票のシステムについて簡単に説明させていただきます。

昨年度、千葉市療育センター（以下療育センター）から検査結果を頂けるかどうかの話が出たかと思います。何年か前までは出していませんでしたが、ここ数年は渡すようになってきています。ただ心理発達の検査は出していますが、言語発達の検査は未だに出していませんので、改善していかなければならないと思います。心理評価も医療行為の中で行っていますので評価に問題があってはなりません。それらを公開していくことによって施設のレベルアップを図っていきたいと思っています。



追加資料1について説明させていただきます。

まず、療育センターに来所された方の具体的な事例で話をさせていただきます。3歳5か月で単語が3つか4つぐらいしか出ていないお子さんが来ました。母親が1歳半で相談して「様子を見ましょう」となり、3歳過ぎになって単語が少ないということで、保健福祉センターで簡単な検査をして、3歳5か月で療育センターに来所となりました。こういった子が未だに千葉市にいること自体が子ども支援システムのネグレクトだと思います。読字障害、学習障害をしっかりと見ないのは学校のネグレクトであり、こういった子どもたちをサポートしないということは社会的ネグレクトになります。

もう少ししっかりしたシステム作りも必要ですが、もう1つの問題点は、保健福祉センターで簡単な発達検査をしているにも関わらず、発達検査の結果も何もなく療育センターへまわされて来たことです。色々なところで色々な人が関与しているのに、療育センターで診察をしても関与している人にフィードバックができない。健診の時などに「相談に行きなさい」と親に伝えられるのみで、紹介票もないので誰が療育センターを勧めたのかがわからないのが現状です。

追加資料1の鹿児島県の療育システムではしっかりと紹介票を使っています。これは幼稚園や学校といった教育側から医療機関に出すための紹介票です。できたら千葉市でも保健師や教員も含め、この紹介システムを考えていきたいと思っています。実際、紹介票を記載して紹介してくれた保健師もいます。

診断をするのは医療機関ですが、診断がなくても支援は可能ですし、診断をしても結果的には支援に戻ることになるわけです。支援につなぐ方、紹介票を持って診療につなぐ方、診療に関わる方など、有効な社会的なリソースを活用できるシステム作りをぜひお願いしたい。

何かご意見ありますでしょうか。

## ○ 小山委員

EPOの小山と申します。先程、お話がありました診療情報の件ですが、最近是利用される方のほとんどが持って来られます。どうもありがとうございました。

昨年度、保健師がネグレクトの問題等について関係機関を全部集めての支援会議を頻繁に開いて頂いていました。このような形でできると千葉市全体でいい連携が取れると思います。

## ○ 菊池委員

新紹介票がないと療育センターに相談に行けなくなりますか。「それなら療育センターに行ってみなよ」とつい言うってしまうのですが、まずはどこに行けばいいと言えればいいのでしょうか。

## ○ 杉田座長

あくまでも療育センターは診療機関です。あまり多くはないですが、その前に相談できる機関があると思います。

## ○ 菊池委員

診断してほしくて紹介するのではなくて、子育てに悩んでいたり、少し気になるなという方が一番悩んでいます。その人にどこを紹介するのかと言ったら療育センターになってしまいます。学齢期であれば養護教育センターを紹介しますが、それがいけなかったとするとど

こへ連絡すればいいのでしょうか。

### ○ 杉田座長

療育センター療育相談所内でも、相談部門と診療部門というのは本来役割が違うわけです。療育センターでも役割分担を考えていかなければならないことだと思いますが、少なくとも今のシステムでは、すべてが診療の方に来てしまいます。そこを改善したいというのが私の考えです。

### ○ 菊池委員

なるほど。特に診断は求めていない方もいます。個別の教育支援計画は診断名や障害名ではなく困り感から入っていて、その困り感にどう対応するかということが明記されているのはとてもいいと思います。これがライフサポートファイルに蓄積されていけば、やり直しがなくなる。

診断してほしいとあまり思っていないくて、子育てに悩んでいて、普通の子育て支援ではない障害により近いのではないかという時に、どこに相談したらいいのでしょうか。誰を紹介したらいいのでしょうか。

### ○ 杉田座長

原則的には保健師が母子保健の中で子育て支援をやっておりますので、保健師がそういう役割だと私は思っていますがいかがでしょうか。

診断前の支援がベースであり、その後に診断があります。千葉市も母子保健対策で行っていると思いますがステップが違うと思います。1歳半健診や3歳児健診で保健師が相談にのっています。そこで必要なことが診断であるならば紹介票を持って療育センターに来るという流れがいいと思います。

### ○ 山田委員

健康支援課の山田です。現状では3歳児健診で保護者の方もご心配されている、診断してほしいということになると療育センターを紹介するという流れが原則になります。

### ○ 鈴木委員

困ったら相談機関と認識しています。療育センターにまず相談に行くと思っています。

### ○ 高橋事務局長

療育センター事務局長の高橋です。よろしくお願い致します。療育センターに来所される方は、健診を受けて紹介をされた方、もしくは保護者が心配で受診をされたという方が多いのが現状です。今のシステムでは紹介や紹介状がないと受診できないということはありません。療育相談所では診察をしたが特に問題がないというお子さんも結構いらっしゃるのも事実です。特に発達障害に関してのご相談が非常に多く、今は2か月位まで短縮できていますが、一時は4か月程お待ち頂くような事態でした。鹿児島県の診療部と支援部のように療育センター療育相談所の仕組みを変えていく必要があるとは思っています。ただし、療育センターだけではできませんので、市全体での仕組みを考慮してのご提案だと思っています。

## ○ 杉田座長

その通りです。療育相談所はパンク状態というのが現実です。社会的資源には限界がありますので、保健師に相談したり、幼稚園等で巡回相談を利用したりして頂かないとやっていけません。少なくとも相手の事情を良く理解して紹介したり、紹介票に何が問題であるかを記入して、親にもしっかり話をして行ってもらう。その代わり、それに対して我々がコメントを書きフィードバックしていくのは当然のことです。千葉市での子どもの療育支援システムのあり様を行政とも相談していく予定です。

## ○ 久保田委員

でい・まさごの久保田です。私共の法人で20年近く利用者さんを見てきて、千葉市で療育手帳を取った人は、相談の履歴などにほぼ間違いなく療育センターという名前が書いてあります。おそらく千葉市で長く障害福祉に携わった方は、早期に療育センターという理解でいると思います。「障害児かもしれないので療育センターで診てもらったら」と言う人は、100万人の市民の中にたくさんいると思います。そうした理解の中では、療育センターが何か月も待たせないでワンストップでやれるという機能を確立する方向でもいいのではないかと思います。

早期療育の必要性や発達障害というカテゴリーがあると言われてからもかなり経っていますので、定着させて行くことにお金をかけていったらどうかと思います。このライフサポートファイルが障害を持った子達にもっとフォーマルものになるような仕組みを作ったり、療育センターを更にもう1か所作っていくような方向の舵取りを障害者自立支援課が行っているといいのではないのでしょうか。

## ○ 柏原課長

この後、皆さんから頂いた意見を縦の連携と横の連携、早期療育に分けて説明をし、またご意見を頂く展開にしていきたいと思いますがよろしいでしょうか。

## ○ 杉田座長

いかがですか。

私から提案させて頂いた件につきましては、どうするか戻って考えて頂きたい。こういったものがあれば診療する側も助かりますし、フィードバックをするためにも必要です。スムーズに療育を行うシステムを改善するためにも充実させて頂きたいと思います。

以上でよろしいですか。

## ○ 仲村委員

先程のどこに相談すればいいのかという件についてですが、幼稚園、保育所（園）では年長、年中、年少に限ってしまいますが、すすすくサポートをご紹介頂ければと思います。グレーゾーンであったり、何か気になる時に「療育センターに行ってみたら」ではなく、「通っている幼稚園、保育所（園）に来てくれて相談できるみたいよ」とご紹介頂き、ワンクッション置くこともひとつの方法かと思います。すすすくサポートもご活用頂ければと思います。

## ○ 杉田座長

では、柏原課長、お願い致します。

## ○ 柏原課長

今回の調査にご協力頂きまして、誠にありがとうございます。お手元の追加資料と書いてあるものをご覧ください。今後の発達障害支援の検討課題について、3項目を設定して照会させて頂きました。意見を整理しましたので順番にご説明させて頂きます。

### ～追加資料2の説明～

以上です。頂いた意見につきましては、来年度に本市に設置予定の千葉市発達障害者支援地域協議会において検討していきたいと考えています。

次にA3の参考資料をご覧ください。第3次浜松市障がい者計画から抜粋した資料です。今後、本市が検討すべき発達障害者施策の全体像がわかりやすい図になっていると考えまして参考に提出するものです。

千葉市でもこの図に書いてある関係機関など様々な材料がそろっています。この中をどのように詰めていくか、議論の中心になる課題が先程説明したものだろうかと思います。発達障害の児童にその行動の変容を求める、いわゆる治療を加えるのではなく、その特性にあった合理的配慮、環境を整える支援を行って、周りが発達障害を受容していくことができれば、二次障害を予防すると共にその児童のいいところを伸ばしていけます。そのような効果がある連携を各関係機関で行うことについて検討して参りたいと考えています。

なお、千葉市発達障害者支援センターの委託事業として開催して参りました当連絡協議会は、本日をもって終了と致します。本市の発達障害者支援施策の推進に関する協議は、今後新たに設置致します発達障害者支援地域協議会でこの図の中身が埋まるように、そして皆さんに頂いた課題がクリアできるように協議していきたいと考えています。

説明は以上となります。

## ○ 杉田座長

ありがとうございました。まだ時間がありますので、ぜひご意見をお願い致します。

## ○ 小山委員

私からは児童発達支援事業、放課後等デイサービスについて現状を踏まえてお話しさせて頂きます。千葉市は支給量を基本的に22日としています。これに伴う弊害が見られています。例えば軽度のお子さんを抱え込んで「この子は週5日来ないとよくなりません。ですから週5日でないと受けません。」と言うところがあります。こういった事業所は支給量22日に対して、サービス利用の契約量が30日となっていることもあります。先方に指摘をすると「千葉市に確認をしたら良いと言われた。」と言い、千葉市に確認をすると「そんなことは言っていない。」と言った言わないになります。本来はルールとして守るべきであることを千葉市から各区に周知してほしい。千葉市だけではなくて日本全国、同じ問題が起きてきています。

サービス等利用計画を作成している指定相談支援事業者が現場を見に来るのは療育センターしかありません。それ以外のところはほとんど来ません。相談員も情報はわかってい

と思いますが、実態の把握はできていないのではないかと思います。そういったことも検討をして頂きたいと思います。

また、美浜区は事業所を併用する方が多いです。支給量22日を使わなければ損と言う方が多く、療育方針が違う事業所に行って子どもを翻弄してしまうことが起きています。私共の事業所では併用をしないでほしいと要望をしますが強制はできません。強制はできませんが、そうしないとお子さんを翻弄してしまうのでお願いをしています。

行政の支給決定を調整することでもう少し良くなるのではないかと思いますので検討して頂ければと思います。

以上です。

## ○ 杉田座長

いかがですか。

## ○ 柏原課長

ありがとうございました。委員がご指摘なされた通り、まずはやってみるという考えで、全国で取り組んでいるのが発達障害支援の現状だと思います。やっと世の中が発達障害を理解してきて、今は混乱期だと思います。今後は質、アセスメントが重要だと思います。アセスメントの次はトータルコーディネートです。将来を見据えたトータルコーディネートができる方がいないと、やはり二次障害になってしまいます。アセスメントとそれに基づいたトータルコーディネートが必要で、それも困り感の視点からというところが本筋だと思います。それを理解していない事業者が多々あるという意見は伺いましたので、今後の課題とさせていただきます。ありがとうございました。

## ○ 杉田座長

はい、他にいかがでしょうか。

## ○ 木村様

放課後等デイサービスの話が出ましたが就労移行支援事業も全く同じような状況です。例えば大学を卒業したが働けない、でも何とかしたいと思い、障害者手帳を取ることを苦渋の選択として決めたのに、発達障害の方を就職させるのではなくて、就労移行支援事業所が囲い込んで2年間飼育殺しというような状況もあります。子どものデイサービスは保護者がいるので目で見ることができます。ご本人の場合、こんな言い方をしたら失礼になりますが、騙されているようなところもあるけれど、本人はわかっていないということもあります。その辺りを市の方で考えて頂きたいと思います。

## ○ 柏原課長

障害者自立支援課は事業所を指導している課ではありませんが、方向性としてお答えさせていただきます。

就労移行支援事業所はその障害特性に合わせて様々な体験をさせて、その方に合った就労に結びつけるという考えが障害支援の基本ですが、2年間飼育殺しという話は、確かに聞かないわけではありません。これから障害者雇用が進んでいく中で、受け皿の会社の力によって、ある程度は淘汰される部分も出てくると思います。就労支援に違う意識の方が参入して

いるところもあります。やはり様々なところで市ができる指導をして、会社に入り、会社にもジョブコーチが入って、その方が孤立しないようにしていきたいと考えています。

以上です。

## ○ 杉田座長

他にありますか。

## ○ 菊池委員

まずは、相談できるところがきちんとあってほしい。それから早期に発見した後、療育してくれるところがあってほしい。お預かりではなく、構造化することは、この子にとってはどういうところで有効なのか、言葉がないのであればコミュニケーションを取るためにどんな方法がこの子に有効なのかを見つけていくことが必要です。

うちの子も行動障害があり、かなり激しかったですが、自閉症の障害特性のどこにも行動障害はありません。大概作られたもので、私自身もうちの子に関わったことで行動障害を作った一人だと思っていますのでとても反省をしています。親に対する指導は誰がしてくれるのか。結局、コーディネートするのは親なんです。私達がここはこの子に合っているだろうと決め、学校が変わるたびに家も転居してきました。果たしてそれは良かったのかと思うと反省するばかりです。もっと誰かを信頼して二人三脚で進めていけたら、違う子どもになったのではないかと思います。

だから相談するところは本人のこともですが、親の相談にも乗ってもらいたい。不適切な対応の結果が行動障害を作っているので、支援するところも正しい支援をしてもらいたい。

ボーダーの子はお勉強の塾に行ってしまう。ボーダーの子であっても、軽度の子であっても、最重度の子であっても、その子に合った支援ができることができてほしい。今は放課後等デイサービスが雨後の筍のように出てきていますが、いずれ淘汰されてしまうだろうと思います。就労移行支援事業所、就労継続支援A型事業所も淘汰されてしまうのではと思っています。冷たい言い方ですが、やはり正しいところが生き残ってほしいです。

## ○ 杉田座長

他にいかがですか。

子どもの発達を評価・支援するセンターが欧州にはあり、それを療育センターがまかなっていくべきだと私も思っています。教育現場等で行動をきちんと観察して、適切な指導をしていくことが必要です。教員のレベルアップ、保健医療のレベルアップが必要です。くどいようですが少なくとも千葉市内で紹介票を書けるような形のシステムを協議してその後報告をして頂きたい。

## ○ 山田委員

おそらく入り口が違ったのではないかと思います。健診後に保護者から相談があった時に健康課の使えるサービスとしてはストレス相談と心理相談があり、そのどちらを利用したかによって、おそらく紹介票を書くか書かないかも決まってくると思うので、何を使ったかによっても若干違うかと思います。

## ○ 杉田座長

他に如何でしょうか。よろしいですか。

#### ○ 乃万委員

障害者相談センターの乃万です。PC版のものですが「親なきあとはどうしよう？～知っておきたい、障害福祉のサポート～」を配らせて頂きました。障害者相談センターは、18歳以上の方の療育手帳の判定をしていますが、その中で保護者が60代、70代、80代になり、親亡き後は心配、不安だという声が必ずありますのでこういったチラシを作ってみました。もし相談者や利用者の方にお渡ししたいというご要望がありましたらお知らせください。

#### ○ 杉田座長

他に、よろしいですか。

では、これで討議は終了しますが、事務局から何かございますでしょうか。

#### ○ 事務局（川崎）

事務局より1点お知らせがございます。本日の議事録についてですが、杉田座長に内容を確認していただいた上でご署名いただき、公開することとしてよろしいでしょうか。

ありがとうございます。事務局からは以上です。

委員の皆様方、長時間にわたりご議論頂きありがとうございました。以上をもちまして、第12回千葉市発達障害者支援連絡協議会を終了させていただきます。

本日は大変お疲れ様でございました。